

Today's Program



♪ハイドン:ピアノ三重奏曲 ト長調「ジプシーロンド」Hob. XV-25 Haydn: Piano Trio in G Major, Hob. XV:25 "Gypsy"

♪C・ウォリネン: ピアノ三重奏曲 (1983) C. Wuorinen: Piano Trio (1983)

♪A・フット:ピアノ三重奏曲 第2番 変ロ長調 作品 65 A. Foote: Piano Trio #2 in B-flat Major, Op.65

♪シューマン:ピアノ三重奏曲 第1番 二短調 作品 63 Schumann: Piano Trio #1 in d minor, Op.63



Arthur Foote (1853-1937) は、アメリカのロマン派を代表する作曲家の一人で、ブラームスのようなスタイルの、大変良い曲です。

Charles Wuorinen(1938-)は、今アメリカを代表する重要な作曲家の一人で、それこそ、ピーター・ゼルキンとはとても交流が深く、私たちも個人的に知っている作曲家です。技術的にかなりの難曲ですが、音楽的にもコンパクトで内容も深く、現代曲が苦手なお客様でも、圧倒されて引き込まれるような素晴らしい曲ですので、日本の皆様にも是非聴いていただきたいと思います。12分程度の作品で、前半が短く感じられるかもしれませんが、何しろ濃い曲ですし、そして後半には、長めの、そして濃厚なシューマンが来るので、バランス的には丁度いいかと思います。

相沢吏江子

月ピアノ: STEINWAY HAMBURG製



ホルショフスキ・トリオ

ジェシー・ミルス (Jesse Mills, violin) 相沢吏江子 (Rieko Aizawa, piano)

ラーマン・ラマクリシュナン
(Raman Ramakrishnan, cello)

2011年のホルショフスキ・トリオ結成のニュースは、個々のメンバーのキャリアが高く認識されているアメリカの音楽界で、大きな反響を呼んだ。結成発表のわずか数週間以内に、ニューヨーク、ボストン、ワシントン、フィラデルフィア、ロサンジェルス等、アメリカ主要都市を含める30カ所以上の演奏会がすぐに決定。その後、インドツアー、2014年の日本ツアーなど国際的な活躍へと発展し、その評価を着実に上げている。2014年、米国レーベルのブリッジ・レコード社からCDをリリース、英国グラムフォン誌からも高い評価を受けた。2018年は、恩師ホルショフスキの没後25年にあたることから、二度目の日本ツアーが実現した。

ヴァイオリンのジェシー・ミルスは、ニューヨークで生まれ育つ。ナクソスからリリースされた数々の録音の中で、シェーンベルクのシリーズにおいて、既に二度、グラミー賞にノミネートされた。才能の幅は広く、作曲と編曲の他、ジャズも演奏し、チック・コリアや小曽根真とも共演している。

ノーベル賞受賞の化学者の父を持つ、チェロのラーマン・ラマクリシュナンは、ハーバード大学で物理を専攻し、優等賞を得て卒業。その後、本格的に音楽に専念し、ダデラス弦楽四重奏団の創立メンバーとして11年間活動し、室内楽界での高い地位を築き上げた。

ピアノの相沢東江子は、内田光子の推薦で、13歳の時、カザルスホールでアレクサンダー・シュナイダーと共演。その直後、カーネギーホールとケネディーセンターでコンチェルト・デビューし、アメリカへ移住。ニューヨーク・タイムズに「深い感銘を与える才能」と評され、アメリカ、ヨーロッパ各地で、常に高い評価を得ている。

ミルスとラマクリシュナンは、幼少時代からの音楽仲間で、後にニューヨークで、相沢と知り合った。 三人は、音楽界のメッカ、ジュリアード音楽院、マルボロ音楽祭等で研鑽を積み、その豊かな経験と長年の友情は、お互いの信頼関係を深くしていった。そして2011年、偉大なピアニスト、ホルショフスキ(1892-1993)への敬意の下、未亡人の賛同と支援を得てトリオの結成が決定した。相沢は、カーティス音楽院でホルショフスキの最後の弟子でもあり、三人は、ホルショフスキの暖かく喜びに溢れた音楽には勿論、彼の誠実で謙虚な人柄からも強くインスピレーションを受けていることから、「ホルショフスキ・トリオ」の名前が生まれた。

彼らのレパートリーは広く、伝統的な作品から、アメリカのJ.ハービソン、C.ウォリネン、N.ローレムなど現代作品までに及んでおり、彼らのために書かれた新曲はすでに10曲以上になる。また、ホルショフスキ自身が交流を持っていた、ラヴェル、フォーレ、そしてサン=サーンス、ヴィラ=ロボス、マルティヌー、グラナドスといった作曲家の稀で貴重な作品も、積極的に取り上げている。ホルショフスキ・トリオは、ニューヨークを拠点に活動を展開しているかたわら、ロンジー音楽院で後進の指導にも力を注いでいる。2016年には、ロンジー音楽院のレジデントアンサンブルに選ばれ、ベートーヴェン・チクルス、ブラームス・チクルスなどを行い話題となった。

今後のCD録音としては、2019年1月にシューマンのピアノトリオ全曲がリリースされ、来シーズンにブラームスのピアノ三重奏曲、四重奏曲全曲のレコーディングが予定されている。2019年には、ロンドンのウィグモアホールへの出演を含むヨーロッパツアーも計画されている。